

新たな総合計画の骨子案

01 審議経過

1. 第1回総合計画審議会

計画策定の基本的考え方、県づくりの視点等を議論

- ・令和7年1月31日（金）9:30～11:30
- ・参加者：総合計画審議会委員28名

2. 関係団体等との意見交換会

各分野の現状・課題、目指す姿や方向性等を議論

①「県土強靱化、安全・安心」分野

- ・令和7年3月10日（月）10:00～12:00
- ・参加者：関係団体等14名、総合計画審議会委員4名

②「まちづくり、交通、観光」分野

- ・令和7年3月14日（金）10:00～12:00
- ・参加者：関係団体等10名、総合計画審議会委員3名

③「農林水産」分野

- ・令和7年3月18日（火）10:00～12:00
- ・参加者：関係団体等10名、総合計画審議会委員3名

④「こども、教育、文化・スポーツ」分野

- ・令和7年4月14日（月）10:00～12:00
- ・参加者：関係団体等8名、総合計画審議会委員10名

⑤「産業・スタートアップ」分野

- ・令和7年4月16日（水）10:00～12:00
- ・参加者：関係団体等9名、総合計画審議会委員4名

⑥「健康・医療・福祉」分野

- ・令和7年4月17日（木）13:30～15:30
- ・参加者：関係団体等17名、総合計画審議会委員6名

3. R6年度第6回成長戦略会議

今後のトレンドや変化を見据え、富山県の目指す姿を議論

- ・令和7年3月25日（火）15:30～17:00
- ・参加者：成長戦略会議委員11名

02 主な意見と政策分野 ①

主な意見を踏まえ、12の政策分野を設定

◆こどもまんなか社会

政策分野【こども・子育て】

- ・こどもまんなか社会の実現には、大人目線ではなく、こどもと視座を合わせて、こどもの声を拾い上げながら取り組んでいかねばならない。
- ・「こどもまんなか」とは、社会全体でこどもの権利を守り、支援することであるという共通認識の醸成が必要。
- ・市町村域を超えた子育てサービスの充実など、働きながら子育てしやすい環境のさらなる整備が必要。
- ・保育士の確保に向けた取り組みの充実が急務。
- ・不登校などの困難を抱えるこどもや、その親に対する支援が必要。

◆教育の充実

政策分野【教育】

- ・こどもが予測困難な時代を生き抜く力を身につけるため、自立性や主体性を育む教育を充実させるべき。
- ・特別な支援が必要な児童生徒や外国人のこどもが増加している中、それぞれのこどもが自分らしく生き、夢を実現するための選択肢がある環境づくりが必要。
- ・多様な体験や活動を通じてこどもたちが心の容量を広げ、折れない心や非認知能力などを育てていくことが必要。
- ・公立と私立が共同して富山県の教育の魅力を高めていくことが必要。
- ・教育県富山を支えてきた教員のスキルを次世代にどのように継承していくのか、対応は急務ではないか。

02 主な意見と政策分野 ②

◆文化・スポーツの振興、環境保全

政策分野【文化・スポーツ】

政策分野【環境】

- ・博物館や美術館が多く、幅広い芸術・文化、歴史に触れることができる環境は貴重であり、維持すべき。
- ・特に子どもたちが芸術や文化、歴史と伝統に親しみ、感性をはぐくむことで心の豊かさや幸せにつながるような仕掛けがさらに必要。
- ・年齢、性別や障害の有無等を問わずすべての県民にとって生きがいとなる文化活動の振興は今後も重要。
- ・スポーツに触れる機会のない子どもが増えている要因を分析し、対応策を検討すべきではないか。
- ・プロスポーツは県民に夢を与えてくれるものであり、地域活性化にもつながるため、支援すべき。
- ・おいしい水や空気、米など県民の快適な生活基盤を支えているのは、生物多様性を備えた自然環境であり、その保全が重要であることを広く県民に理解してもらう取組みが今後も必要。
- ・モーダルシフトを推進するなど、環境負荷の低減を図りながら、カーボンニュートラルの実現に向けた取組みが必要。

◆医療・福祉の充実

政策分野【健康・医療・福祉】

- ・限られた人員で地域医療を維持するため、医療機関の機能分担と連携強化をさらに図り、医療需要に応じた医療供給体制の在り方を検討すべき。
- ・地域を支える総合診療医や在宅医療を担う訪問看護師の育成とともに、感染症や災害に備えた体制整備に平時から取り組む必要。
- ・介護・福祉の人材確保やサービスの質向上のためにも、幼少期からの福祉教育の充実、外国人材の計画的な確保、処遇改善やDX活用を深化させる必要。
- ・健康寿命を延ばし、生産年齢人口の定義に捉われず、元気な高齢者が安心して働ける社会づくりを強化していくべき。
- ・障害者の就労支援や親亡き後の支援、災害時の配慮など、障害者の意思を尊重し、地域で暮らし続けられるような環境整備が必要。

02 主な意見と政策分野 ③

◆多様な人材の活躍

政策分野【人材活躍・共生】

- ・若者が富山に戻ってくるには、中高生の時に県内で活躍する人材や魅力ある取組みを知り、富山で活躍できる可能性を体感することが大事ではないか。
- ・県内に魅力的な職場があることが学生に十分伝わっておらず、効果的な情報発信やインターンシップの充実が必要。
- ・二地域居住・複数拠点生活などを含めて富山県への移住のメリットを自然環境・職場・教育など幅広い観点から強調していくべき。
- ・日本中にいる富山県出身者や富山県ファンとつながることができる「リコミュニティ」があるとよいのではないか。
- ・結婚したくてもできない人へのサポートも必要。
- ・外国人は地域にとって貴重な人材であると捉え、その家族も含めた生活環境や教育環境の整備が必要。
- ・すでに富山で活躍する外国人材のことを県民がもっとよく知るべきであり、彼らの力を地域に活かすことと、多文化共生の担い手を地域に育てることが重要。

◆社会インフラ、安全・安心

政策分野【インフラ・県土強靱化】

- ・能登半島地震への対応の検証を踏まえ、官民連携強化や既存ルールの見直しなどできることからスピード感をもって実施すべき。
- ・コミュニティの存続が危惧される能登半島地震の被災地に向けて、新たなまちづくりへの支援が必要。
- ・「事前復興」の考えを取り入れ、災害から復興しやすいまちづくりを念頭に、ソフト面からの防災対策の充実・強化などを含めた次世代型の社会基盤整備を展開する必要がある。
- ・すべての既存の社会インフラを残していくことは困難。将来を見据えた県土のグランドデザインについて議論していくべき。
- ・建設業が、県民の安全確保に不可欠なエッセンシャルな業種であるという認識を広めていくことが重要。
- ・特殊詐欺対策として、高齢者、青少年への消費者教育の充実、相談窓口の充実が必要。

02 主な意見と政策分野 ④

◆まちづくり・交通

政策分野【まちづくり・交通】

- ・住民自らまちづくりに携わることが誇らしさにも通じる。そうした活動の場づくりが必要。
- ・移住者が地域で主体的な取り組みを行うには、地元の年長者など住民との接着剤となる人材が重要。
- ・デマンド交通やライドシェアなど、自助・共助・公助を組み合わせた効率的な交通ネットワークを、官民一体となって進める必要。
- ・スポーツ観戦やイベント参加などが、公共交通機関の利用促進につながるような取り組みに期待。
- ・北陸新幹線の早期全線開通に期待。空港など基本的なインフラの整備も必要。

◆産業振興

政策分野【産業・GX】

政策分野【スタートアップ】

- ・産業の生産性向上に不可欠なデジタル人材が中小企業では不足。情報系企業や大学との連携を通じたD Xのさらなる進展が必要。
- ・持続可能なものづくりには、研究開発への積極的な投資とD X・G Xの推進が今後必要。D Xによる次世代ものづくり基盤の強化などを通じて、今後10年の成長を目指すべき。
- ・医薬品産業の集積の強みを生かし、成長の可能性が見込まれるヘルスケア産業の育成に挑戦すべき。
- ・アルミ・プラスチック産業におけるリサイクル技術の確立を通じて、サーキュラーエコノミーをさらに推進すべき。
- ・スタートアップ創出の拡大に向けた、人材や資金を呼び込むエコシステムづくりが重要。スタートアップに意欲があってもビジネスモデルが確立していない若者と、一定の顧客や売上を保有していても後継者のいない企業をマッチングするシステムを構築し、意欲的な若者を呼び込んではどうか。
- ・スタートアップ×地場企業の連携を促進し、新事業領域の拡大やイノベーションを実現すべき。スタートアップへの挑戦のような「ワクワク」「ドキドキ」できる環境が、若者の呼び込みに重要。
- ・企業の跡継ぎに対する支援や、企業の中で新しい事業を起こしたいと考えている人に対する支援も充実することで、県全体の成長力につながるのではないかな。

02 主な意見と政策分野 ⑤

◆農林水産業・農山漁村の振興

政策分野【農林水産】

- ・ 農林水産業の生産性の向上のため、DXのさらなる推進や、スマート農林水産業に対応した基盤整備は今後も必要。
- ・ 農林漁業で連携したブランディング、有機栽培や地域飼料を活用する資源循環型畜産の推進などを通じ、県産農林水産物・食品の付加価値向上をさらに追求すべき。
- ・ 農林漁業の体験活動などを通じた生産者と消費者の交流機会は、拡大・深化の余地がある。
- ・ 富山県の農林水産業には投資する価値があると思われるような、生産現場の環境改善が必要。
- ・ 林業については、ウッドチェンジによる県産材のさらなる利用促進が必要。
- ・ 水産業については、養殖の振興など水産資源の増殖による成長産業化も目指すべき。
- ・ 食料安全保障の観点からも、農業用水利施設の維持管理体制の充実、災害に強い施設整備などが必要。

◆観光振興

政策分野【観光】

- ・ テクノロジーの進化により余暇が増え、観光需要も高まることが予想され、県として観光業を主要産業にしていくことは必要不可欠。
- ・ 観光において娯楽よりも、地域の人との出会いや学びなどストーリー性のあるコンテンツの体験ニーズが高まっており、それに応えられる環境づくりと、移住・定住への誘導が重要。
- ・ 観光消費額が高い欧米豪のインバウンドを呼び込むためのプロモーションが必要。
- ・ ランドマークとなるようなホテルの誘致など、富山観光のシンボルとなるものがさらに必要ではないか。
- ・ 列車の待ち時間など、観光のすき間時間を埋める場所やイベントがあれば満足度が随分と変わってくる。

03 計画骨子案 ①

1. 策定の趣旨

- 現行の総合計画の策定（H30.3）から7年が経過し、富山県を取り巻く社会経済情勢は、計画策定時から大きく変化し、新たな課題への対応が求められている
- このような時こそ、県民が将来への夢と希望をもてるよう、分かりやすいビジョンが必要
- 本県の更なる成長と発展を目指すため、県民が主役の新しい富山県の未来を指し示す、新たな総合計画を策定する

2. 計画の位置付け

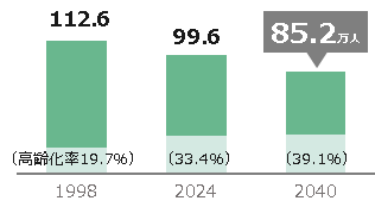
- 県政運営の基本指針、県政全般に関する最上位計画
まち・ひと・しごと創生法の「都道府県版総合戦略」としても位置づけ

3. 計画期間

- 令和7年度～令和11年度までの5年間
概ね10年後の将来の目指す姿を見据え、その実現に向けた5年間の施策の方向性を示す

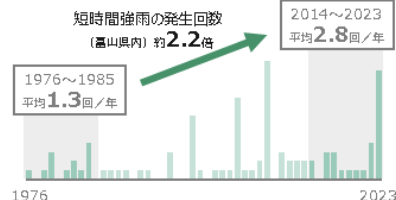
4. 富山県を取り巻く環境変化と課題

人口減少と 少子高齢化



富山県の人口は、1998年の112.6万人をピークに、2040年には85.2万人まで減少すると予想（社人研）。人口減少を緩和する取組みと、将来の人口構造を踏まえた社会づくりが求められる

自然災害の 頻発化・激甚化



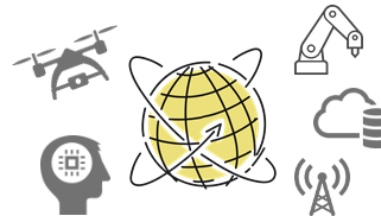
R6能登半島地震では、富山県における観測史上最大の震度5強を記録。気候変動等により、自然災害のリスクは高まってきており、頻発化・激甚化する災害への備えが不可欠

担い手の多様化



ジェンダー平等、働き方改革、外国人材の受入れなど、多様な人々が活躍できる環境整備が進展。年齢、性別、国籍等に関わらず、誰もが活躍でき、共に支え合う社会の実現が求められる

イノベーションの深化 グローバル化



AI、ロボット等の先端技術の実装が進み、生活や経済活動の在り方が大きく変化。技術革新やグローバル化の進展は、産業構造や働き方、暮らし方に変革をもたらすことが期待される

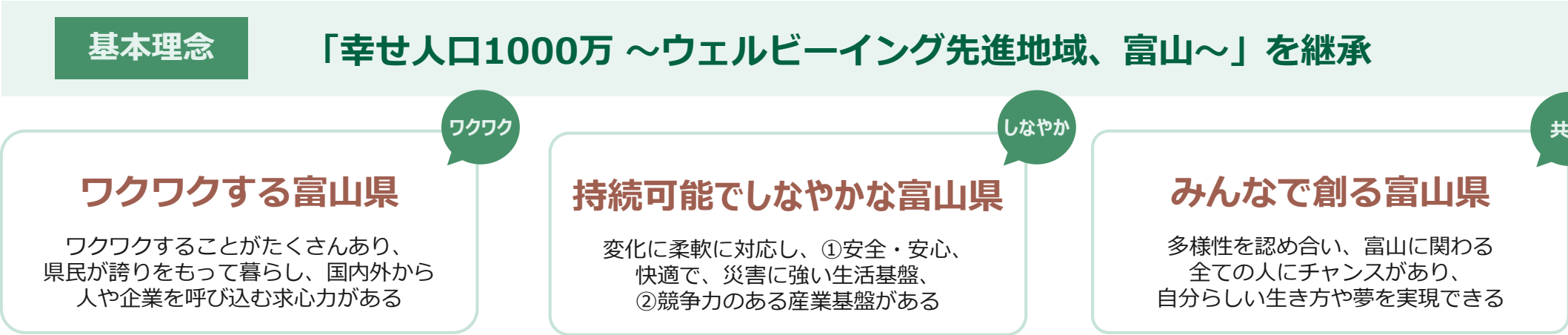
価値観の多様化



コロナ禍を経て、働き方や結婚、幸せや豊かさに関する価値観が多様化。ウェルビーイングへの関心も高まっている。誰もが自分らしく暮らせる社会の実現が求められる

03 計画骨子案 ②

5. 富山県の将来像（目指す姿）：基本理念と県づくりの視点～ビジョンと目標～



6. 2つの柱・12の政策分野 × 「ワンチームとやま」で推進

柱 1 未来に向けた人づくり

— 本県の活力を支え、発展の礎となる —

[政策分野]

- 01

こども・子育て
- 02

教育
- 03

文化・スポーツ
- 04

健康・医療・福祉
- 05

スタートアップ
- 06

人材活躍・共生

柱 2 新しい社会経済システムの構築

— 県民が躍動する舞台を創出する —

[政策分野]

- 07

インフラ・県土強靱化
- 08

まちづくり・交通
- 09

農林水産
- 10

産業・GX
- 11

観光
- 12

環境

04 12の政策分野の内容 ①

審議会、県議会、市町村、関係団体、県民等
のご意見を踏まえ、さらに内容を充実

01

こども・
子育て

【10年後の目指す姿】

「こどもまんなか社会」が実現し、
全てのこどもが幸せに暮らし、健やかに
成長しています。

主な取組みの方向性

■ こども・子育てを社会全体で支え合う気運の醸成

（こどもの権利の普及啓発等を通じ、社会全体で子育て支援に取り組む気運を醸成）

■ こども・若者・子育て当事者のライフステージに応じた切れ目ない支援

（妊娠、出産期の支援体制の整備充実、病児・病後児保育などの保育サービスの充実、こどもの支援に関わる専門職のさらなる処遇改善や人材確保など）

■ 様々な困難を抱えるこども・若者への支援

（家庭や学校以外のこどもの成長にふさわしい安全・安心な居場所づくりの推進、ひとり親家庭等への子育てや就業支援の充実、虐待や障害など様々な困難を抱えるこどもや若者、その家族に対する切れ目ない支援の充実など）

■ 子育てにかかる経済的負担の軽減

（妊娠、出産、子育て、教育に係る費用負担に対する支援など、子育て家庭等の経済的負担の軽減）

■ こどもが安全・安心に生活できる環境の整備

（通学路の安全確保など交通安全対策の推進、こどもを犯罪から守るための活動の推進など）

02

教育

【10年後の目指す姿】

こどもたちや若者が、学びを通じて、
生きる力や未来を切り拓く力を身につけ、
自ら考え、主体的に行動しています。

主な取組みの方向性

■ こどもの才能や個性を伸ばす教育の推進

（STEAM教育を基盤とし、地域や社会の課題解決を題材とした問題解決型学習（PBL）の推進、1人1台端末などICTを最大限に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実など）

■ 学びたい、学んでよかったと思える学校づくり

（オープンハイスクールの充実、弾力化など学校段階間のスムーズな連携・接続の推進、様々なタイプの学校・学科の開設による学校の魅力向上など）

■ 誰一人取り残さない多様性と包摂性のある教育の実現

（フリースクール等民間施設との連携やインクルーシブ教育、特別支援教育の充実、夜間中学の設置など、個々に応じた適切な教育環境の整備、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの配置による教育相談体制のさらなる強化など）

■ 質の高い教員確保

（熟達した教員が持つノウハウの伝承、外部人材の活用による教員の多忙化解消など）

■ 様々な体験を通じた豊かな心の育成

（部活動の地域展開やキャリア教育による社会体験、地域と結びついた多様な体験活動の充実など）

■ 高等教育機関の振興

（県立大学をはじめとする県内高等教育機関の教育研究体制の充実、地域連携等の取組みへの支援等を通じた県内高等教育機関の魅力向上）

04 12の政策分野の内容 ②

03

文化・
スポーツ

〔10年後の目指す姿〕

誰もが文化やスポーツに親しみ、関わる
ことにより、心の豊かさや身体的な健康を
実感しています。

主な取組みの方向性

■ こどもが文化芸術に触れ親しむ機会の拡充

（美術館、博物館でのワークショップや学校でのアウトリーチ活動の充実など）

■ 身近なところで文化芸術に親しむ機会の充実

（美術館、博物館や文化ホールなど、県民に身近なところで、誰でも質の高い文化芸術に親しむことのできる機会・環境の充実・支援）

■ 世界文化遺産登録に向けた取組みの推進

（「近世高岡の文化遺産群」や「立山砂防」の世界文化遺産登録に向けた、資産の一層の充実・磨き上げ、顕著な普遍的価値の特定・証明のための取組みの推進）

■ ふるさとから学び、ふるさとを楽しむ教育の推進

（郷土の歴史や文化、産業、自然、偉人についての理解を深める学習活動の推進など）

■ スポーツに親しむ環境整備

（こどもたちが一堂に会して多様なスポーツ体験ができるイベントの拡充や、トップアスリートがジュニアアスリートの育成・強化に関わることができる環境・体制の整備など）

■ スポーツを通じた関係人口の創出と地域活性化

（官民連携で発足する「富山県スポーツコミッション」による、県内のスポーツチームと連携・協働した県全体でスポーツを応援する機運の醸成、地域貢献・地域活性化の取組みの推進など）

04

健康・医療
・福祉

〔10年後の目指す姿〕

誰もが住み慣れた地域で支え合い、
心身共に健康で安心して暮らしています。

主な取組みの方向性

■ 質の高い救急医療・在宅医療等の提供体制の整備

（各医療機関が担う機能や役割分担を明確化し、高齢者救急や在宅医療を支える医療機関は身近な区域で確保し、救急医療や周産期医療、高度な急性期医療は圏域を拡大するなど医療資源の集約化の推進）

■ 地域医療を担う医療人材の養成・確保

（質の高い医師・看護職員など地域医療を担う人材の育成・確保による、地域に必要な医療提供体制の確保）

■ 地域共生社会の実現に向けた医療・介護・福祉等の包括的支援体制の整備

（ケアネット活動など支援を要する高齢者や障害者、こども等を地域ぐるみで支え合う関係性の構築、在宅医療における医療・介護情報共有システム整備への支援や医療・介護・障害福祉の連携促進、多様な主体が地域包括ケアに取り組む機運醸成、市町村の取組みに対する伴走支援の充実）

■ 介護・福祉人材の確保と介護現場における介護テクノロジー導入の推進

（多様な人材の参入に向けた支援や、介護事業所等への介護ロボットやICT等の導入に対する支援強化など、介護・福祉サービスを支える人材の養成・確保と働く環境の改善の総合的な推進）

■ 高齢者の社会参加活動の推進

（高齢者の社会参加促進や健康寿命の延伸による、高齢者がエイジレスに活躍できる環境の整備）

■ 障害者が地域で安心や幸せを感じる社会の実現

（障害福祉サービスの充実や地域生活支援拠点の機能強化、多様な就労の場の確保・工賃向上に向けた取組みの推進等による障害の有無に関わらず地域で安心して幸せを感じながら暮らせる環境の整備）

04 12の政策分野の内容 ③

05

スタート
アップ

【10年後の目指す姿】

スタートアップエコシステムが構築され、
新たな価値を生み出す人材や
起業に挑戦する人材が育っています。

主な取組みの方向性

■ さらなる創業機運の醸成

（ビジネスプランコンテストや起業体験プログラム等による若者の創業機運の醸成、グローバルに活躍できる起業家マインドを養成するための海外での研修機会の提供など）

■ スタートアップ支援の裾野拡大

（ヒト・モノ・カネ・情報の流れを作る、「オール富山」でのスタートアップエコシステムの形成、県内企業や経済界、大学・研究機関、自治体等によるスタートアップ支援のネットワーク構築と、スタートアップとのマッチング機会等共創の促進など）

■ 新たなスタートアップの発掘・誘致

（県内の企業内資源等を活用したスタートアップやアトツギベンチャーの創出など）

■ 「SCOP TOYAMA」を拠点とした創業支援

（起業家や移住者を呼び込む、創業支援拠点づくりなど）

■ グローバル水準のエコシステム形成に向けた地域間連携

（地域の尖った産業構造やリソースを活かし、地域経済を活性化しながら海外エコシステムにも繋がる県境を越えたエコシステムの形成など）

06

人材活躍
・共生

【10年後の目指す姿】

年齢、性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、誰もがいきいきと暮らし、
活躍しています。

主な取組みの方向性

■ 多様性を認め合い、多様な人材が活躍する地域づくり

（若者・女性に選ばれる職場環境づくり、誰もが働きやすい職場環境づくり、県内外の学生など若者の県内就職のさらなる促進、アンコンシャス・バイアスへの気づきと解消など）

■ 全国に先駆けた「人材確保・活躍の富山モデル」の創出

■ 出会い・結婚の希望を叶える支援

（若い世代が自分の将来について主体的に考える機会の充実、結婚を希望する人への多様な出会いの機会の充実など）

■ さらなる移住の促進

（移住希望者や二地域居住など多様なライフスタイルを志向する人に対する富山県のさらなる魅力発信（自然の豊かさや災害の少なさ、食の魅力、仕事や子育て環境の良さなど））

■ 関係人口の創出・拡大

（県内外の多様な人材のつながりを創出し、新たな政策やプロジェクトを生み出す取組みの推進、ワーケーションをはじめとした新たなライフスタイルやニーズにも対応した取組みの推進、富山県出身の若者同士がつながることのできる機会の創出）

■ 多文化共生と外国人材活躍による活力ある地域づくり

（地域におけるコミュニケーションの支援やその担い手の育成確保、地域や企業における外国人の受入れ、活躍・定着に向けた支援）

04 12の政策分野の内容 ④

07

インフラ・
県土強靱化

【10年後の目指す姿】

県土の強靱化と県民の防災・防犯意識の
変革・向上により、安全・安心な地域づくり
が進んでいます。

主な取組みの方向性

■ 令和6年能登半島地震からの復旧・復興の着実な推進

（被災者のくらしの安定が速やかに図られるよう、生活の基盤となる住まいの確保や公共インフラの復旧に取り組むなど、能登半島地震からの復旧・復興の着実な推進）

■ ライフラインとなる道路の計画的な整備・レジリエンス強化の推進

（罹災時に一早く復興するため、代替性が確保された道路ネットワークの強化に向けた緊急輸送道路など県内主要道路の整備促進）

■ 公共インフラの耐震化、老朽化対策

（A Iやドローンなど最新の技術を活用した公共インフラの予防保全型メンテナンスの推進、複数・広域・多分野の公共インフラを「群」と捉えた効率的・効果的なマネジメントの推進、住民との対話のもと、インフラの選択と集中による持続可能なマネジメント（維持・管理）の推進）

■ インフラの将来像の「自分事化」、建設業の魅力発信

（県民自らがインフラを守り、支える担い手であるとの意識の醸成や、安全確保のための不便・不利益に対する受容性の向上を図るため、インフラの将来像を県民だれもが「自分事化」していくための取組みの推進、建設業の人材確保に向けた若者への魅力発信）

■ 令和6年能登半島地震の災害対応検証を踏まえた、地域防災力の向上

（県や市町村、関係機関のワンチームによる連携体制の強化、デジタル技術を活用した情報収集・共有体制の強化など防災DXの推進、災害時に誰もが安全・安心に過ごすことができるジェンダーレス防災の推進など）

■ 安全・安心な暮らしの確保

（特殊詐欺等の消費者被害防止、犯罪のない地域環境づくり、総合的な交通事故防止対策の推進など）

08

まちづくり
・交通

【10年後の目指す姿】

様々な交通サービスがつながる
ネットワークの形成や、快適なまちづくり
により、県民一人ひとりが地域に誇りを
持ち充実した暮らしを実現しています。

主な取組みの方向性

■ 富山らしい個性的なまちづくり・地域づくり

（まちづくりの担い手の育成や地元が中心となった組織づくりへの支援、まちづくりの活動をサポートできる人材の育成、若者が新たなことに挑戦できる環境づくり）

■ 公共交通機関の利便性・快適性向上

（地域が必要とする地域交通サービスの確保・向上に向け、自治体や住民・企業・店舗等が当事者として地域交通サービスに積極的に「投資」「参画」する取組みの推進、地域の関係者の共創による持続可能な移動サービスの立ち上げなどの取組みへの支援、地元のスポーツチームなど、各分野の関係者との連携による公共交通を中心としたライフスタイルへの転換の推進）

■ 持続可能な地域交通サービスの構築

（暮らしの中の移動手段の選択肢として、公共交通機関の利用を促す仕組みづくりの推進、地域交通サービスを支える担い手の確保・定着）

■ 陸・海・空の交通基盤整備

（北陸新幹線の全線整備の着実な推進、富山空港の利便性向上・活性化と航空ネットワークの維持・充実、高規格道路から生活道路まで安全で快適な道路ネットワークの形成、「国際拠点港湾」伏木富山港の機能強化）

04 12の政策分野の内容 ⑤

09

農林水産

【10年後の目指す姿】

農林水産業の生産性が高まり、多くの県産品が国内外で販売されることにより、収益力の高い、担い手に選ばれる魅力的な産業となっています。

主な取組みの方向性

■ 持続可能な稼げる農業の推進

（新規就農者の確保・育成、第三者継承・企業参入の促進、温暖化に対応した米産地と大規模園芸産地の育成、スマート農業技術を活かせる基盤整備、農業DXの推進による農業の成長産業化など）

■ 主伐による森林循環の加速化と持続可能な森づくり

（民間と連携した林業イノベーションの推進による生産性向上、ウッドチェンジ推進による県産材の利用拡大と安定供給の推進など）

■ 水産資源の持続的利用と水産業の持続的発展及び漁港の活性化

（新たな栽培対象魚種の研究開発と事業化の推進、陸上養殖も含めた養殖業の推進、街並み景観など漁村の魅力を活用した海業の推進など）

■ 食のとやまブランドによる消費拡大・販路拡大・輸出拡大

（インバウンドによる食関連消費の拡大、輸出拡大と連動した生産拡大モデルの構築、伏木富山港や富山空港を活用した最適な輸出ルートの確立など）

■ ワクワクする農山漁村の持続的な発展と都市との交流

（農村RMOを核とした多様な人材による農村コミュニティの維持・強化、食や歴史、景観など地域資源の発掘とブラッシュアップによる、農泊と併せた収益向上の後押しなど）

■ 災害に強い農業用施設整備・システムの構築

（農業水利施設の戦略的保全管理と気候変動に対応した生産基盤の防災・減災機能の維持・強化など）

10

産業・GX

【10年後の目指す姿】

イノベーションが進展し、多様な人材が活躍することで、基幹産業の持続可能な成長と新たな産業の創出が図られ、経済の好循環が実現しています。

主な取組みの方向性

■ 成長分野への参入促進と産業競争力の強化

（オープンイノベーションによる新製品・新技術の研究開発支援、富山の強みを生かしたヘルスケア産業振興の検討、産学官連携によるバイオ医薬品等の高付加価値医薬品の研究開発や医薬品製造専門人材育成の取組みへの更なる支援など）

■ サーキュラーエコノミーの推進

（本県が強みを持つアルミ産業をはじめとした各分野での産学官連携によるサーキュラーエコノミーの推進や異業種連携によるプロジェクトの創出、普及啓発イベント開催等によるサーキュラーエコノミーへの理解促進や意識醸成の確立）

■ 中小・小規模企業の総合的な支援体制の強化

（製造業をはじめとした各産業分野でのDXを通じた生産性の向上の取組みに対する支援、新商品開発・販路開拓などの前向きな取組みの支援、関係機関と連携した事業承継支援の強化など）

■ 成長分野企業をはじめとした積極的な企業誘致の推進

（県内外の学生など若者の雇用につながる本社機能・研究開発拠点等の誘致など）

■ 地域産業を支える人材の育成・確保

（産業界のニーズ等に応じた職業能力開発の取組みやリスキリングの促進、人材育成支援による人材の供給体制の強化、伝統工芸産業など富山県独自の産業を支える人材の育成・確保など）

04 12の政策分野の内容 ⑥

11

観 光

【10年後の目指す姿】

富山の日常にある幸せと上質な暮らしが多くの人に知られ、国内外から旅行者、滞在者が増加しています。

主な取組みの方向性

■ 戦略的な観光地域づくり

（観光DXの推進と「稼げる」観光地域づくり、観光を担う人材育成と地域における活躍促進など）

■ インバウンドや高付加価値旅行者の誘客の推進

（観光消費の旺盛な高付加価値旅行者の誘客促進、高付加価値旅行者向け宿泊施設の誘致・整備支援など）

■ 三大都市圏を中心とした国内誘客の推進

（北陸三県をはじめ近隣県や交通・旅行事業者等と連携した首都圏・関西圏等での戦略的なプロモーション（日本橋とやま館、HOKURIKU+の活用）、Webマーケティングに基づく県観光公式サイトや公式SNSの戦略的運用、映画等の誘致による認知度向上など）

■ 広域観光の推進

（近隣県からの誘客・広域周遊の促進、新幹線駅と県内観光地等を結ぶ観光路線バスの運行支援など）

■ 富山らしい魅力創出

（黒部宇奈月キャニオンルートの魅力発信と旅行商品の磨き上げ、五箇山・立山黒部・富山湾など富山ならではの特別感のある魅力の発信など）

■ 「寿司」を起点とした関係人口の創出・拡大と地域活性化

（寿司を起点とした国内外の観光客との接点拡大、官民連携事業の創出、寿司提供体制の維持強化を図るための人材育成支援など）

12

環 境

【10年後の目指す姿】

脱炭素・循環型社会づくりの取組みが県民・事業者に着するとともに、豊かで美しい自然環境と安心して健康的に暮らせる生活環境が保全されています。

主な取組みの方向性

■ 再生可能エネルギーの導入促進

（太陽光発電、水力発電、風力発電、バイオマス発電、地熱発電、再エネ熱利用など）

■ 省エネルギーの徹底

（住宅や建築物の省エネ化、省エネ性能の高い機器の導入促進、電動車の導入拡大や物流の脱炭素化など）

■ 環境教育・人材育成の推進

（こどもたちへの環境教育を通じた脱炭素型ライフスタイルの普及、地域の脱炭素化に資する人材の育成など）

■ 循環型社会を目指した廃棄物の3Rや適正処理の推進

（プラスチック、木質バイオマスなどの地域循環システムの構築や家庭・事業所における食品ロスの削減、人口減少・高齢化や災害対応なども踏まえた安定的・効率的な廃棄物処理体制づくり）

■ 豊かな自然環境の保全と持続可能な利用

（安全で快適な山岳環境、野生生物の保護管理体制の整備など）

■ 良好な生活環境の保全と環境資源としての活用

（工場・事業場の排水監視等でのAI、IoTの活用の推進、本県の美しい山と海、水の恵みを環境資源とした観光・産業等への活用）

05 今後のスケジュール

	R6年度			R7年度								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
総合計画 審議会	[1/31] 第①回 ・諮問 ・策定の考え方等				[5/14] 第②回 ・骨子案				[9/4] 第③回 ・素案		[11月頃] 第④回 ・答申案	[◆答申]
県民・ 関係団体			[3/10,14,18,4/14,16,17] 関係団体等との意見交換会 【①回目】				[7/28,29,8/4,18,19,21] 関係団体等との意見交換会 【②回目】		パブリックコメント			★ 策定・公表
県議会 ・市町村					[5/16] 市町村長との意見交換 （「ワンチームとやま」連携推進本部会議）			[7～8月] 県議会議員との意見交換会				

06 関係団体との意見交換会〔2回目〕

- ・ 関係団体等と知事との意見交換を実施
- ・ 骨子案をもとに、各分野の目指す姿や、必要な取組みの方向性等を議論

7/28（月） 10:00～12:00

① 「県土強靱化、安全・安心、環境」分野

7/29（火） 10:00～12:00

② 「まちづくり、交通、観光」分野

8/ 4（月） 10:30～12:30

③ 「農林水産」分野

8/18（月） 10:00～12:00

④ 「こども、教育、文化・スポーツ」分野

8/19（火） 10:00～12:00

⑤ 「産業・スタートアップ」分野

8/21（木） 15:00～17:00

⑥ 「健康・医療・福祉」分野

07 未来共創セッション

知事が県内15市町村を訪問し、富山県の未来の姿を考える、県民参加型ワークショップ「未来共創セッション」を開催

- 目的：県民の総合計画への関心を高め、将来の県づくりを自分事として捉える機運を醸成
- 各回のプログラム（想定）
 - ①計画骨子案の報告（※有識者によるキーノートスピーチを行う回も設定予定）
 - ②グループワーク：県の将来像や未来の富山のために自身ができることを共に考える
 - ③グループ発表、所感
- 毎回、参加者の意見・提案をまとめたグラレコを作成
グラレコやSNS等を活用し、総合計画の策定過程を広く県内に発信・共有

7/12 土

富山市

7/13 日

南砺市

7/27 日

氷見市

8/ 3 日

砺波市

8/ 9 土

入善町

8/10 日

上市町

8/10 日

舟橋村

8/12 火

魚津市

8/20 水

小矢部市

8/23 土

立山町

8/24 日

朝日町

8/29 金

黒部市

8/30 土

高岡市

8/31 日

滑川市

9/ 2 火

射水市

9/15 祝

富山市

将来人口の見通し

01 新たな総合計画における将来人口の見通し（案）

- 新たな総合計画は、「まち・ひと・しごと創生法」で定める「都道府県版総合戦略」として位置付ける。
⇒ 戦略の策定にあつては、県の人口の現状及び将来人口の見通しを踏まえる必要

【現状】

- ・ 現行「都道府県版総合戦略」（とやま未来創生戦略）は、「富山県人口ビジョン」（H27.10）を踏まえ策定
⇒ **目標：2060年に総人口80.6万人を維持する（※目標は、合計特殊出生率の向上等を前提としたもの）**

【新たな総合計画における将来人口の取扱い（案）】

○既存の人口目標値設定の算出根拠としている合計特殊出生率は、

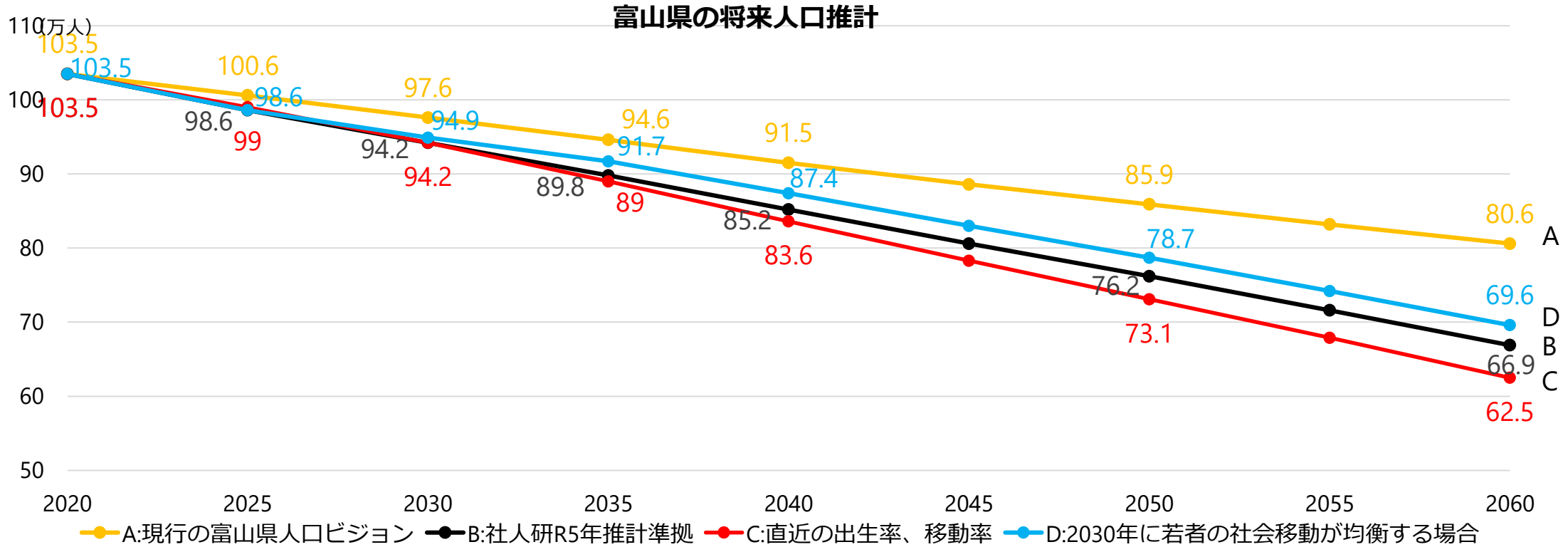
- ①未婚女性の転出により上昇する場合があること（少子化の状況を的確に反映しない）
- ②多様な価値観・考え方がある中で、こどもを持たなければならないという価値観の押し付けになる懸念があること

○国の総合戦略においても、人口の総数の長期的な展望を示すのみで目標値を掲げていないことなどを踏まえ、

新たな総合計画では、

- ①本県の将来人口は、国と同様、長期的な見通しを示す
- ②できる限り人口減少のスピードを抑制できるよう社会動態の改善に取り組むとともに、
人口減少下にあつても、県民一人ひとりのウェルビーイングの向上を目指し、様々な取組みを盛り込む

○2015（H27）年10月策定の「富山県人口ビジョン」では、2060年の県の目標人口を80.6万人と設定
○国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計や直近の指標を用いて試算した結果、富山県の将来人口は 2060年には62～69万人台まで減少する見込み



（出典）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」をもとに富山県試算

【試算の仮定等】

- A：現行の富山県人口ビジョン…自然増減：2030年：1.9 2040年：2.07、社会増減：2020年までに若者（15～34歳）の移動均衡
- B：社人研R5年推計準拠…自然増減：2025年：1.31、2030年：1.35、2035年：1.39、2045年：1.40、2050年以降：1.40程度で推移
社会増減：2025～2030年の間に転入超過に転じ、以降継続
- C：直近の出生率、移動率を用いた試算…自然増減：社人研推計（R5年推計）による2025年の出生率（1.31）が継続
（現行の水準が継続すると仮定） 社会増減：独自試算（2023年富山県人口移動調査をもとに試算）した2023年の移動率が今後も継続
- D：2030年に若者の社会移動が均衡するとして試算…自然増減：社人研推計（R5年推計）に準拠
社会増減：2023年の15～34歳の転出超過数（※）が段階的に縮小（※2020人。総務省「2023年住民基本台帳人口移動報告」より）